



手つかずで整備もされていない土地、それでも豊かな自然に囲まれたその場所で
何が出来るかを探す作業に、心が満たされていくのを感じた。
ここにある暮らし方の本質に向き合い、そこに息づくものとの共生を暮らしのテーマにした。

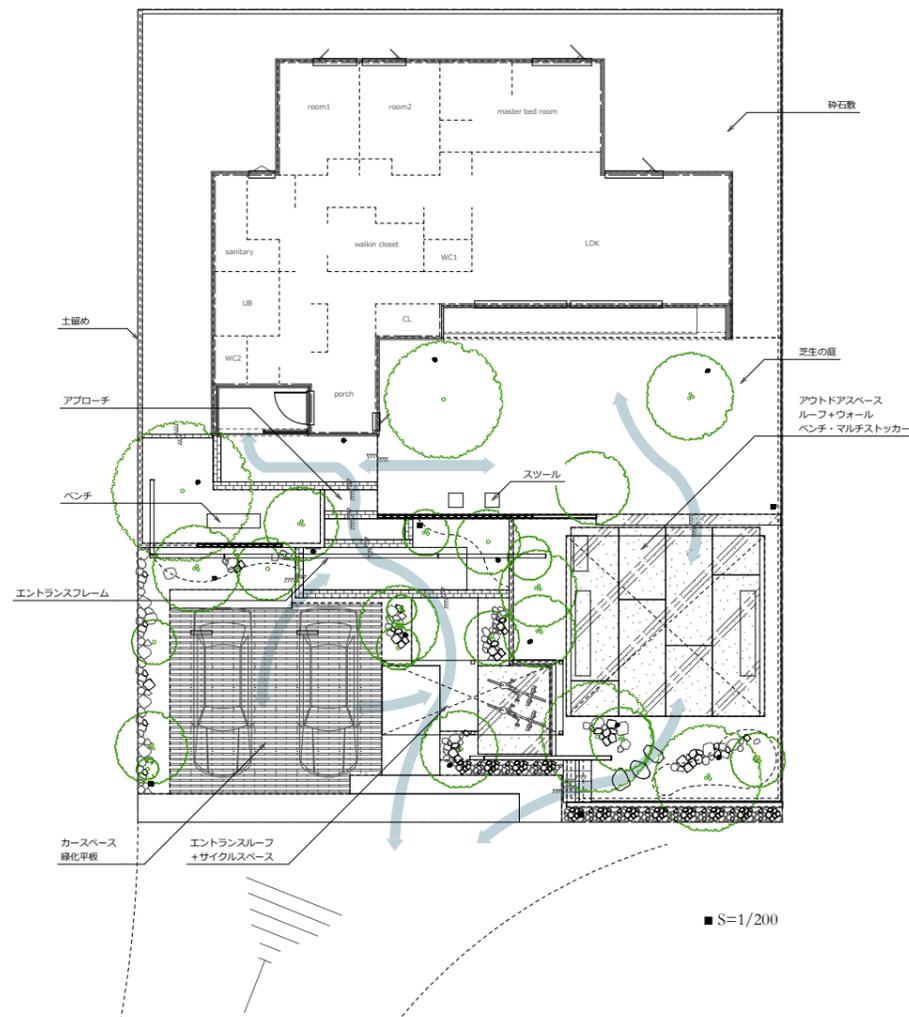
共に在り暮らし。

symbiosis

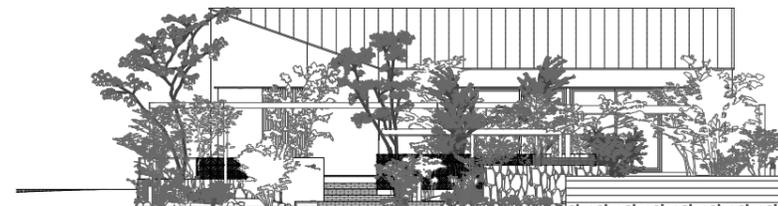
共に在り暮らし.

symbiosis

生い茂る木々の中を抜けた展望の良い土地。
利便性とは程遠い環境だが、年を重ねれば思い通りにならないことばかりだ。
増えていく「出来ないこと」とらわれず、「出来ること」、「したいこと」を考えるきっかけが、此处だった。



最大の魅力だった自然豊かな環境と、心落ち着く静けさをより身近に感じるよう、住まいと外部空間との繋げ方を大事にした。閉鎖的すぎず、境界線を曖昧にし、明確で目的を持たせない緩やかな空間は心地よい余白をつくりだす。



■ S=1/200

「暮らしの中ではたらく」、居住者が自ら構築することが叶う場所だからこそこの選択肢。
此处で得られるものを自分たちだけが享受するのではなく、大きな武器として人々の往来を促したりものづくりに集中して取り組めるアトリエとしても可能性は広がる。





自然に溶け込む色彩や素材にこだわり
解放感と共に、人々を惹き込む外観をつくりこんだ。

共に在り暮らし。
symbiosis

空間に溶け込む自然素材を採用し、
機能的でありながら
暖かみを感じる空間を目指した。
落ち着いた色彩のなかでも
形状やシルエットが違うもので
リズムカルな印象を与える。





思わず、ほっとする。

暮らしから漏れる暖かい光とともに
木々を照らす照明をメインに据えることで
ほんのりと浮かび上がる夜の情景を演出した。



共に在り暮らし。

symbiosis

余分な光源は落とし、
ダウンライトやアッパーライトなど
柔らかな光の拡がりだけでまとめ、
月明りを邪魔しない設計で
静寂のなかで感じる特別な時間を作り出した。

